

令和2年度前期学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校
南アルプス市立八田小学校
南アルプス市立八田中学校

第1回学校関係者評価委員会

日時：令和2年8月27日（木）19：00～20：30

場所：八田小学校視聴覚室

1. 教職員の自己評価

(1) 学校経営について

- 新型コロナウイルス感染防止のために、通常の教育活動や学校運営を行うことができなかった。しかし、日々さまざまな工夫をして取り組んでいることが感じられた。
- コロナ禍で小中の交流計画が思うように出来ていない現状がある。しかし、本当に必要なものは何かを考えるよい契機となった。例えば、「授業参観がないからこそ、その必要性がわかった。」というご意見などである。
- 小中一貫教育の内容が保護者にもわかりづらい。他の学校との違いやこれまでの教育の仕方との違い等、説明してほしい。特に、取組の柱については書面等で周知し、先ずは保護者への理解を深めることが肝要である。
- 小中一貫校としての取組は、いろいろと模索中なのだと思うが、小中の保護者同士の座談会などがあると、親も安心感が得られるのではないか。
- 教員の多忙化が言われているが、ライフワークバランスを考えながら健康な生活が送れるようにしてほしい。そのことが、子ども達のためになる。
- 子供たちが安心して通える学校づくりをしていただいていると感じる。安全面だけでなく、子供たちが楽しいと思える学校生活を送れることも大事ではないかと思う。行事等で、先生たちが楽しんで一緒に取り組んでもらっているのを見ると、子供たちも自然と楽しく学校生活を送れるのではないかと思う。

(2) 教育課程・学習指導について

- 八田小中学校では、小中一貫教育を「児童生徒の学力向上」に主眼を置いて行っている。9年間の途切れのない教育課程を実現することで、小中のギャップをなくし、同じ手法で学習を進めようとしている。
- コロナの影響もあると思うが、1学期の授業は「駆け抜けた」感がある。置いて行かれる子供が出ないようにお願いしたい。
- 小学校に縦割りで上級生が下級生の面倒をみる取組があるが、中学生にも同じように下級生の「学習」をみてあげる取組があっても良いと考える。活用型の学習を小学5、6年生及び中学生が縦割りで行ってはどうか。
- 協働的な学習が深い学びにもつながってくる。小学校5、6年生で「グループ学習の基礎」を身につけさせ、中学校入学時には主体的で対話的な学習ができるようにしておきたい。

- 小学校で長年行ってきた「立腰教育」を中学校でも取り入れ、背筋を伸ばして学習するように指導している。背筋を伸ばすことで集中力も高まり、学習効果が上がる事が期待される。
- 立腰教育に取り組んでいることをうれしく思う。どんなスポーツでも基本の姿勢は大切にされている。同じように人間が生きていくうえで、腰を立て、背筋を伸ばして何事にも取り組んでいくことは大切な事である。これからも続けてほしい。
- 小学校の階段に英語の単語が貼ってあるのを見て、一貫教育をしていることが感じられた。
- 「八田小中スタンダード」及び「八田小中学習スタンダード」を活用、又は意識しているかの部分で、A評価よりB評価の方が高いことが少し気になる。先生によって差があるのは、子供にとって不幸である。学習による小中一貫を考えているのなら、全職員がA評価（そう思う）であるべきだ。

(3) 生徒指導について

- コロナ禍による臨時休校等があり、児童生徒がスマホやゲームをする時間が増えてきている。それによる「有害サイトへのアクセス」や「ゲームでの課金」、「SNSでのトラブル」など、親としては心配が尽きない。これらは時代とともに進化していくわけだが、頭ごなしに否定するのではなく「どのように付き合っていくのか」をこれからは考えていくべきである。子供たちの方が順応するのが早い傾向にあるが、大人も学習していく必要がある。そして、正しい使い方や情報モラルを教えていきたい。
- 小学校では「授業に関係ないものは持ってこない」などの校則みたいなものはあるが、比較的自由なので、子供たちは中学の校則がとても厳しく感じるようだ。そこにも、中一ギャップがあると言えるのではないかな。
- 靴下の長さなど、普段の生活に関係ないような校則もあるが、ルールの中で楽しんで生活をしていくことを学ぶには良いことだと思う。
- 先生たちも大変な中、子供たちに指導していただき感謝している。
- いじめはどの子供にも、どの学校にも起こり得ることであり、どの子供も被害者にも加害者にもなり得る。したがって、学校、家庭、地域が一体となって、未然防止・早期発見・早期対応に取り組まなければならない。そして、いじめの認知を積極的に行い、いじめ解消率を100%にすることこそが重要である。保護者や地域の方々には、ホームページ上の「学校いじめ防止基本計画」を是非ご覧になってもらいたい。
- 「学校教育は受けなくてもよい」といった考えの親もいるらしいが、親も子をずっと見ていられるわけではない。「社会的自立」をし、「生きる力」を身につけさせるためにも、今のこの時を大切にさせたい。

(4) 特色ある開かれた学校について

- 教育活動の中に地域の人材や施設を利用していきたいと考えている教員が少なからずいる。今後は「地域全体で子供たちを育てる」という考え方が大切である。

- 清流祭や運動会に祖父母が行っても、地域の人たちがいて交流する場になっていた。祖父母も楽しみにしている。
- スクールガードの方々が、雨の日でも暑い日でも危険な箇所にて子供たちを見守ってくれているのでとても安心である。
- 子供が安心して学べる場所としての学校であるために、外部からも地域住民の「見守る力」を提供してもらえると有難い。危険を未然に防ぐためにも、お互いにあいさつをして情報を共有できるような関係性を地域で作っていききたい。

2. 児童・生徒アンケートから

- 「学校が楽しい」と考えている児童生徒がほとんどだったことがうれしく思う。八田小中学校の先生方に感謝するとともに、地域住民として八田小中学校の教育活動に支援・協力していきたい。
- 小学生のあいさつができていないという指摘がある。しかし、児童はしっかりとあいさつができていているという自己評価をしている。できている場面も少なからずあるので、それを認めてやりながら気持ちのよいあいさつがどんな場面でもできるように指導してほしい。一方、中学生のあいさつは部活指導の賜物か、比較的できているようだ。中学生が手本となり小学生に教える姿も望ましいと考える。
- あいさつについては、児童と先生（大人）との認識のずれを修正していただきながら指導をお願いしたい。
- 「困ったことや心配なことがあったら、先生に言いますか（相談しますか）。」の項目が小中とも低い数値となっている。忙しいとは思いますが、「きずなの日」などを使いながら二者懇談（教員と児童生徒）を実施するように努めたい。それによって、いじめの早期発見などにつながったり、相互の信頼関係を構築していくことにもつながったりする。また、昨年度の結果や後期との比較をすることで、経年比較をすることも考えたい。
- 家で読書をしない児童生徒が多いのが残念だ。読書は自己学習の基本だ。本好きな子どもを育てるために積極的に取り組んでほしい。
- 「授業中、質問や意見を言いますか」について、「子供は授業中意見を積極的に言うべきだ」が唯一の考え方ではないと思う。意見を言わずとも、「深い学び」につながることはできると思うので、共感的指導に努めてもらいた。

3. 保護者アンケートから

- 家庭学習がやはり課題であるが、それぞれの家庭で指導しなければ、学校の指導だけでは難しいと感じた。保護者も努力していきたいと思う。
- 中学校の保護者アンケートの中に、ルール（校則）の話があったが、現代社会に合わせて改正などを検討しても良いのではないかと思った。
- スマホやゲームのやり過ぎで「朝起きられない」「宿題ができない」など、気になる場所である。各家庭でルールを決めるとともに、一緒にゲームをする仲間の親同士でも話し合いたい。
- 保護者へのアンケートは内容（問いへの分かりやすさ）次第で良くも悪くもなる可

能性があるため慎重に吟味していただきたい。

4. 成果と課題（今後取り組むべき点，継続するべき点について）

- 中学校で不登校が改善傾向にあることをうれしく思う。これからもきめ細やかな対応をお願いしたい。
- 小中一貫教育であることの利点を最大限に生かしていただき、引き続き学力向上のための取組をお願いしたい。
- コロナ感染がまだ終息していないので、これから行われる行事等を安全に行うための対策をお願いしたい。また、コロナ慣れがないようにもしていただきたい。
- コロナの影響で保護者が学校に足を運ぶことが少なくなっている。そういう中でも子供たちの学校での様子を発信していただいたり、保護者と情報交換しながら指導にあたったりしてほしい。
- G I G Aスクール構想を上手に活用して、生徒・先生ともに「ゆとりの時間」が多く取れるように応援をしたい。
- 自粛期間中の課題は、親と一緒に取り組んだ面があった。G I G Aスクールができれば、ネットを通じてオンライン授業だけでなく、課題を出したり、担任とやり取りしたりすることができる。早期実現を期待する。
- 「小笠原流礼法」「アドジャンタイム」は、「立腰教育」のみならず、小中一貫して行っている教育活動である。今後も継続していきたい。
- コロナ問題で危惧されることは、万一感染した場合の周りの目であり、個人の責任に帰着させようとする世間の風潮である。学校内ならば、人によっては過剰反応を示し、偏見や差別、いじめにも繋がりがねないと思う。子供たちには、冷静に対処するなど、心の持ちようを考えさせてほしい。

5. その他

- 業務改善や授業時数確保等で行事精選は致し方ないところではあるが、コロナ禍でも子供たちが楽しみにしている修学旅行は是非実施してほしい。3密を避ける中で縮小や変更があってもよいが……。